

『環境教育』原稿執筆要項

一般社団法人日本環境教育学会 編集委員会

第1章 原稿の体裁

- (1) 使用言語は、日本語または英語とする。
- (2) 研究論文・総説・研究報告・論説・資料には、表題・著者名・所属・英文表題・英文著者名・英文所属を記載する。ただし、投稿時の原稿（図・表の別ファイルを含む）では、査読・校閲のため氏名と所属を××××で表示してわからないようにする。また、冒頭だけでなく、本文や図・表中で著者が判別できる箇所については、すべて同様とする。ただし、著者自身の文献を引用する場合は、他者の文献と同様に「山田（2020）は」などと表記し、「××（2020）は」とはしない（引用文献リストにおいても同様）。
- (3) 研究論文・総説・研究報告・論説は、上記（2）の情報の他に、英文要旨（300語以内）と英文キーワード（5語以内、アルファベット順）をつける。原則として、英文表題と英文要旨は英語を母国語とする専門家の校閲を受けたものとする。なお、編集委員会での審査を速やかに行うために英文要旨の日本語対訳を別紙で添える。ただし、この日本語対訳は印刷されない。
- (4) 研究論文・総説・研究報告・論説・資料が英語の場合、日本語の表題・著者名・所属・要旨（250文字以内）をつける。
- (5) 上記（2）（3）（4）において、著者が複数いる場合は氏名の右肩にアスタリスクと数字をつけ、それに対応させた形で所属先を書く。著者名の表記は日本語・英語いずれの場合も「姓名」順を基本とする。特に希望がある場合は例外を認める。
 - （例）山田 太郎^{*1}・鈴木 花子^{*2}
北海道環境大学^{*1}
沖縄 ESD 大学^{*2}
 - （例）YAMADA Taro^{*1} & SUZUKI Hanako^{*2}
Hokkaido Kankyo University^{*1}
Okinawa University of ESD^{*2}
- (6) 原稿は、日本環境教育学会の Web サイトからダウンロードできる投稿原稿フォーマット（Word 形式・PDF 形式）に従ってパソコン・ワードプロセッサで作成し、A4 判の用紙に横書き 25 字×49 行の 2 段組とする（英文の場合も 2 段組とする）。原稿にはページ番号を記す。さらに、原稿本文には行番号を付ける。文章は BIZ UD 明朝体（英文原稿は Times New Roman）とし、章・節・項の見出しは BIZ UD ゴシック体（英文原稿は Arial）とする。なお、BIZ UD 明朝体・BIZ UD ゴシック体を他の明朝体やゴシック体で代替しても良いが、印刷時は BIZ UD 明朝・BIZ UD ゴシックになるため、体裁が

変わることに留意する。

- (7) 原則として、原稿の章の見出し番号はⅠ・Ⅱ・Ⅲ、節の見出し番号は1・2・3とし、項の見出し番号は1)・2)・3)とする。
- (8) 句点は「。」、読点は「、」とし、1文字分を占めることとする。
- (9) 文体は「である」調とし、原則として常用漢字、新仮名づかいを用いる。
- (10) 英数字（アラビア数字）は半角文字を用いる。また、丸括弧「()」については、英語で記している時（引用文献リスト内の書誌情報も含む）や数式を記す時は半角、日本語で記している時は全角を用いる。
- (11) 本文中の数字は原則としてアラビア数字を使用し、計量単位は国際単位系（SI）を用いる。ただし、熟語や複合語、慣用句、ことわざ、固有名詞など、語の構成用語として用いられる数（再三、二者択一、四国など）や概数（数十日、百余名など）は、漢数字を使用する。なお「一つ」と「1つ」のように、どちらでも表せる場合は、原稿の中で統一されていればよい。
- (12) 年については西暦の使用を原則とし、元号を使用する場合には、初出時に「令和〇（20〇〇）年」などと西暦を併記する。
- (13) 学術用語は文部科学省の学術用語集を参考にする。生物の和名はカタカナ、学名はイタリック体表記とする。
- (14) 学名や人名・地名、日本語訳が定着していない用語を除き、外国語綴りまたはそのカタカナ表記はなるべく用いない。
- (15) 「従って」「したがって」をどちらかに統一するなど、原稿送付前に表記のゆれがないことを確認する。
- (16) 図（写真を含む）は、原稿本文に掲載を希望する位置に埋め込む。カラーの場合、印刷時にはモノクロになることに留意する。図中の文字は、印刷サイズ（A4判）に縮小しても明瞭に判読できる大きさとする。タイトルは、「図1 〇〇〇」のように連番をつけ、図の下にゴシック体（BIZ UD ゴシックが望ましい）で記載する。凡例は、そのまま印刷できる状態で、図中に記載する。図の配置や縮尺率は、編集委員会が変更する場合がある。なお、投稿者は高解像度の図を1点ずつ手元に保存し、入稿時に編集委員会より求められた場合はすぐに提出できるよう準備しておく。
- (17) 表は原稿本文に掲載を希望する位置に埋め込む。表中の文字は、印刷サイズ（A4判）に縮小しても明瞭に判読できる大きさとする。タイトルは、「表2 〇〇〇」のように連番をつけ、表の上にゴシック体（BIZ UD ゴシックが望ましい）で記載する。説明は、表の下に書く。なお、表の配置や縮尺率は、編集委員会が変更する場合がある。表は、単純な縦・横の罫線による枠組みの中に文字や記号を記入したものに限る。太線・細線・破線は使用してよいが、罫線間の長さに意味がある場合や曲線を含むもの、図等が含まれるものはすべて「図」として扱い、上記（16）に基づき作成する。
- (18) 原稿の理解に必要な調査票等は、分量が多い場合、付録として最末尾に記載したり、J-

STAGE Data に搭載して原稿内で言及したりすることができる。ただし、再末尾に記載する場合は、本文との釣り合いを考え、付録が多くなり過ぎないようにする。なお、J-STAGE Data の利用については別途定める。

- (19) 統計に関する記述については、編集委員会の「統計に関する記述についてのガイドライン」に従う。
- (20) 原稿の送付に関しては投稿規程に示されている手順で送付する。

第2章 参照の形式

本文中の記載

- (21) 本文中に「注」を用いる場合は、その箇所の右肩に(1)のように通し番号を記し、本文の最後にまとめて記載する。なお、その際の丸括弧「()」は半角とする。
- (22) 本文中で文献を参照する場合は、著者の姓、発表年及び必要に応じて引用ページを記載することとし、具体的には次の様式に従う（なお「,」「.」「p」「&」「;」「-」は半角とし、「()」については(10)に従う）。書誌・出典情報は引用文献リストの形で原稿末尾に記載する。
- ・ 単著の場合は以下の通り（左が単ページ、右が複数ページを参照する場合）。
著者の姓（発表年, p.〇〇） 著者の姓（発表年, pp.〇〇-〇〇）
（著者の姓, 発表年, p.〇〇） （著者の姓, 発表年, pp.〇〇-〇〇）
 - ・ 共著者・共編著者が2名の場合は著者の姓を、日本語文献の場合は「・」で、英語文献の場合は「&」でつなぐ。日本語・英語以外の言語で書かれた文献は、これらのうち適当な形で表記する。
 - ・ 共著・共編著が3名以上の場合は、筆頭著者の姓のみを記し、日本語文献の場合は「筆頭著者ほか」または「筆頭筆者ら」、英語文献は「筆頭著者 et al.」と表記する。日本語・英語以外の言語で書かれた文献はこれらのうち適当な形で表記する。
- (23) 本文中で複数の文献を同時に参照する場合、次のように文献間をセミコロンでつなぐ。
- ・ （文献A 著者, 発表年; 文献B 著者, 発表年; 文献C 著者, 発表年）
- (24) 本文中でインタビュー・データを参照する場合は、次の様式に従う。
- ・ （著者によるインタビュー, YYYY年MM月DD日）
- (25) 本文中で新聞記事を参照する場合は、次の様式に従う（[]内は地方名）。
- ・ （〇〇新聞 [東京] YYYY年MM月DD日朝刊, 第〇〇版, p.〇〇）
- (26) ウェブサイト上の情報を参照する場合は「注」扱いとし、公表機関または公表者と URL アドレスおよびホームページ等を確認した日付を、(YYYY年MM月DD日確認) のように記す。投稿者はこの URL のデータを論文公表後4年間保存する。
- (27) 和訳文献を参照する場合は、和訳された原著者名を著者名の所に記し、(スミス, 2001 =2008) のように、原書発表年と訳書発表年を = でつないで併記する。

- (28) 同一年に発表された同一著者の文献を引用する場合、著者名、年のあとに、(山田, 2008a) (山田, 2008b) などとアルファベットを入れる。

引用文献リストの記載

- (29) 引用文献リストの配列順序は、日本語文献と外国語文献を区別しないで、筆頭著者の姓のアルファベット順とし、下記の様式に従い記載する。連名の場合、著者名の中に・を入れ、全ての著者名を記載する。また、引用文献一覧の句読点は「,」「.」(半角)とし、複数行にまたがる場合はぶら下げインデントを用いる。なお、引用文献リスト内の「()」については(10)に従う。

- ・ 単行本の場合…著者名(年)『書名』発行所。
(例) 山田太郎(2008)『環境教育の歴史』環境出版。
- ・ 単行本中の分担執筆部分(章など)の場合… 著者名(年)「タイトル」編著者名 [編]『書名』発行所, 掲載ページ。
(例) 山田太郎(2008)「環境教育と人間発達過程」鈴木花子・田中次郎 [編]『日本における環境教育研究の発展過程』環境出版, 129-156。
- ・ 和訳書の場合…原著者名(原著発行年=訳書発行年)『書名』訳者名 [編], 発行所
(例) スミス, A. (2001=2008)『環境教育の歴史』山田太郎 [編], 環境出版。
- ・ 雑誌の場合…著者名(年)「論文タイトル」『雑誌名』巻(号), 掲載ページ。
(例) 山田太郎・鈴木花子(2008)「環境保全活動における参加者の環境に関する知識の変化」『環境教育』23(2), 29-38。

- (30) 英語の参考文献の場合、著者名は姓を先に記載し「,」をつけ、ファーストネームなどをイニシャルで後に記す。また、著者が複数いる場合、最後の著者名の前を「&」とし、それ以外は「,」でつなぐ。単行本や雑誌の名称はイタリック体とし、単行本・論文タイトルの後は「.」、雑誌名の後は「,」を付ける。また、出版社名の前に発行地も加えて、「発行地: 出版社」のように出版社名とコロンでつなぐ。

(例) Yamada, T. (2008) *The History of Environmental Education*. London: Green University Press.

(例) Yamada, T. (2008) Environmental Education in Japan. In T. Yamada & J.F. Lee Eds. *Environmental Education in the World*. London: Green University Press, 25-35.

(例) Yamada, T. & Lee, J.F. (2008) Developmental Process of Environmental Education Study in Japan. *Environmental Education*, 2(2), 8-21.

- (31) 日本語、英語以外の文献の表記については、(29) または (30) に準じて適切に記載する。また、必要に応じて原語表記に括弧書きで日本語訳、英語訳を付す。
- (32) 巻・号のある雑誌は号数を () に入れ、例えば、2 (2) のようにしてページ数を記載する。
- (33) 引用文献一覧に印刷中または in press を付すことができる文献は、その論文がすでに

受理されている場合に限ることとし、当該論文の複写を投稿論文送付とともに同封する。

- (34) 本原稿執筆要項に記載されているもの以外は、アメリカ心理学会の論文作成マニュアル（Publication Manual of the American Psychological Association）の最新版に従う。

2022年11月4日改訂